第62回デメンシアカンファレンスを開催

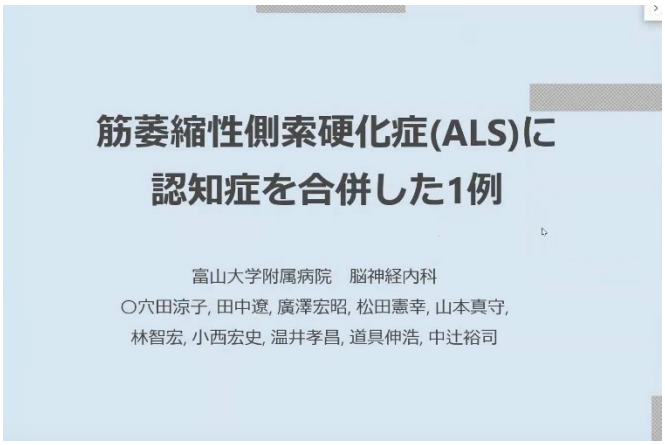
2020年6月9日

６月９日（火）に富山大学が担当する北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）「第６２回デメンシアカンファレンス」を開催しました。

今回のカンファレンスは、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行の拡大を踏まえ、集合形式＋テレビ会議システムによる開催を見合わせ、代わりにデメンシアカンファレンスをWeb上で開催しました。

「筋萎縮性側索硬化症に認知症を合併した１例」のタイトルで、富山大学からの症例報告で進められ、活発に質疑応答や意見交換が行われました。

症例発表の様子



症例のスライド

第 62 回デメンシアカンファレンス　報告要旨

『筋萎縮性側索硬化症(ALS)に認知症を合併した 1 例』

発表者：穴田涼子（富山大学附属病院　脳神経内科）
司　会：道具伸浩（富山大学附属病院　脳神経内科）

【要　旨】

症例は 64 歳男性。X-3 年より物忘れが進行し、HDS-R 22 点と両側側頭葉内側の萎縮を指摘され、アルツハイマー型認知症(AD)と診断された。脱抑制・衝動性や自発性低下を示唆するようなエピソードはなかった。X-1 年 1 月より右手の筋力低下と骨間筋の萎縮を自覚した。約 1 年で体重が 10kg 減少し、運動ニューロン疾患疑いで X 年 1 月に当科入院となった。両手内筋の萎縮、四肢・脳幹レベルでの錐体路徴候、両上肢での fasciculation を認め、筋萎縮性側索硬化症(ALS)と診断した。失語や失行・失認はなく礼節保たれ、MMSE 22 点、HDS-R 15 点と低下し、見当識と短期記憶障害が目立つ一方、FAB 14 点、TMT-B 121 秒と、前頭葉機能低下の所見に乏しかった。脳血流 SPECT では後部帯状回や楔前部の血流低下を認めた。髄液 T-tau、P-tau の上昇はなかったがアミロイドβ42 は 293 pg/mL と低下を認めていた。以上より、本例は ALS と前頭側頭葉変性症（FTLD)を併発した ALS with dementia(ALS-D)でなく、AD を偶発的に合併した 1 例と考えた。FTLD と ALS はリン酸化 TDP-43 が細胞内に蓄積する点で共通の病態が存在する。一方 AD と ALS は病態が異なるが、両者の合併の報告はあり、生前診断で ALS+AD であったが剖検で ALS+FTLD 病理であった報告も存在する。

【質問・意見】

意見：比較的若年の AD の割には、リン酸化タウ蛋白等のバイオマーカーの変化が少ないこともあり、診断が難しい例と思われる

回答：御指摘の通りで、既報告でも病理所見の不一致例があったり極めて広範に封入体が分布した ALS の例もあるので、FTLD-U 病理で表現型が AD であった可能性も考えられる。一方で、ln(T-Tau/Aβ42) が高感度・高特異度で FTLD と AD を鑑別できた報告によれば、本例では AD に一致する。また T-tau/アミロイドβ42 比の上昇も AD のパターンではある。とはいえ、経過をみないと分からないかもしれない。

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

NINPRO

第62回 デメンシアカンファレンス(Web)

「筋萎縮性側索硬化症に認知症を合併した1例」

2020年6月9日（火）18:30～19:00

演者：富山大学　脳神経内科　穴田　涼子

担当：富山大学

対象：認プロ参加施設及びその他の施設の医療関係者（医療系大学の学生含む）

【参加方法】

個人のパソコンからＷｅｂ会議システム（WebEX）を使用

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行の拡大を踏まえ、当面の間、集合形式＋テレビ会議システムによるデメンシアカンファレンスの開催を見合わせ、代わりにWeb上で開催します。

・教育コース履修者、メディカルスタッフe-learning講座の登録者、認プロ参加施設の各委員・事務担当者には、事前に北陸認プロ運営事務局からメールで参加案内をお送りします。案内状のメールに従って会議にご参加下さい。

・上記以外で参加を希望される方は６月８日までに氏名とメールアドレスを北陸認プロ運営事務局までお知らせ下さい。
（ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp ）

・教育コース履修者の出席はオンライン画面にて北陸認プロ運営事務局が確認します。

【お問い合わせ先】
北陸認プロ運営事務局
〒920-8640　金沢市宝町13番1号
TEL：076-265-2149　／　FAX：076-234-4208
E-mail：　ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp　／ URL: http://ninpro.jp/